

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (ドイツ語学ドイツ文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学・漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
--	---

**主履修分野のカリキュラム**

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	◎	○	△
21401	言語研究入門	言語研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2	*				◎		
21402	文学研究入門	文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2		*			◎		
21410	ドイツ語学概説B	ドイツ語研究の考え方の基礎を身につける。	2			*	*	◎		
21411	ドイツ文学史B	ドイツ文学の歴史上の流れを理解する。	2			*	*	◎		△
42335	ドイツ文学史A	ドイツ文学の歴史上の流れを理解する。	2	*	*			◎		△
42336	ドイツ語学概説A	ドイツ語研究の考え方の基礎を身につける。	2	*	*			◎		
42337	ドイツ語読解基礎1	ドイツ語読解の基礎力を身につける。	2	*					○	◎
42338	ドイツ語読解基礎2	ドイツ語読解の基礎力を身につける。	2		*				○	◎
42339	ドイツ語コミュニケーションⅠⅠ	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を積み上げる。	2	*				◎	○	
42340	ドイツ語コミュニケーションⅠⅡ	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を積み上げる。	2		*			◎	○	
42341	ドイツ語コミュニケーションⅡA1	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を完成する。	2			*		◎	○	
42342	ドイツ語コミュニケーションⅡA2	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を完成する。	2			*		◎	○	
42343	ドイツ語コミュニケーションⅡB1	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を完成する。	2			*		◎	○	
42344	ドイツ語コミュニケーションⅡB2	ドイツ語コミュニケーション能力の基礎力を完成する。	2			*		◎	○	
42345	ドイツ語コミュニケーションⅢA1	ドイツ語コミュニケーション能力の中級力ををつける。	3	*				◎	○	
42346	ドイツ語コミュニケーションⅢA2	ドイツ語コミュニケーション能力の中級力ををつける。	3		*			◎	○	
42347	ドイツ語コミュニケーションⅢB1	ドイツ語コミュニケーション能力の中級力ををつける。	3	*				◎	○	
42348	ドイツ語コミュニケーションⅢB2	ドイツ語コミュニケーション能力の中級力ををつける。	3		*			◎	○	
42349	ドイツ語コミュニケーションⅣⅠ	ドイツ語コミュニケーション能力の上級力をを目指す。	3			*		◎	○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (ドイツ語学ドイツ文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学・漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
--	---

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4						
42350	ドイツ語コミュニケーションIV2	ドイツ語コミュニケーション能力の上級の方を目指す。	3				*		◎	○			
42351	ドイツ語表現法1	ドイツ語の文章力を鍛える。	3				*		◎	○			
42352	ドイツ語表現法2	ドイツ語の文章力を鍛える。	3				*		◎	○			
42353	ドイツ語学講義A1	ドイツ語研究のテーマを選び、検討を加える。	2,3,4	*		*			◎		○	△	
42354	ドイツ語学講義A2	ドイツ語研究のテーマを選び、検討を加える。	2,3,4	*		*	*		◎		○	△	
42355	ドイツ語学講義B1	ドイツ語について認知的観点から諸問題の理解を深める。	2,3,4	*		*			◎		○	△	
42356	ドイツ語学講義B2	ドイツ語について認知的観点から諸問題の理解を深める。	2,3,4	*		*	*		◎		○	△	
42357	ドイツ語学講義C1	コミュニケーションの問題からコトバと人間について考える。	2,3,4	*		*			◎		○	△	
42358	ドイツ語学講義C2	コミュニケーションの問題からコトバと人間について考える。	2,3,4	*		*	*		◎		○	△	
42359	ドイツ語学演習A1	ドイツ語について言語学的に考える訓練をする。	2,3,4	*		*			○			○	◎
42360	ドイツ語学演習A2	ドイツ語について言語学的に考える訓練をする。	2,3,4	*		*	*		○			○	◎
42361	ドイツ語学演習B1	ドイツ語について認知言語学研究の訓練をする。	2,3,4	*		*			○			○	◎
42362	ドイツ語学演習B2	ドイツ語について認知言語学研究の訓練をする。	2,3,4	*		*	*		○			○	◎
42363	ドイツ語学演習C1	コミュニケーションの問題からコトバと人間について主体的に取り組む。	2,3,4	*		*			○			○	◎
42364	ドイツ語学演習C2	コミュニケーションの問題からコトバと人間について主体的に取り組む。	2,3,4	*		*	*		○			○	◎
42365	ドイツ文学講義A1	文学理論および研究方法論の観点から、ドイツ文学研究の個別の問題を理解する。	2,3,4	*		*			◎	○		△	
42366	ドイツ文学講義A2	文学理論および研究方法論の観点から、ドイツ文学研究の個別の問題を理解する。	2,3,4	*		*	*		◎	○		△	
42367	ドイツ文学講義B1	ドイツ近現代文学の個別の問題を理解する。	2,3,4	*		*			◎	○		△	
42368	ドイツ文学講義B2	ドイツ近現代文学の個別の問題を理解する。	2,3,4	*		*	*		◎	○		△	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (ドイツ語学ドイツ文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学・漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
--	--

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4						
42369	ドイツ文学講義C1	ドイツ語圏の言語と文化の諸問題を理解する。	2,3,4	*		*				◎	○	△	
42370	ドイツ文学講義C2	ドイツ語圏の言語と文化の諸問題を理解する。	2,3,4		*		*			◎	○	△	
42371	ドイツ文学講義D1	ドイツ語圏の文化と社会の諸問題を理解する。	2,3,4	*		*				◎	○	△	
42372	ドイツ文学講義D2	ドイツ語圏の文化と社会の諸問題を理解する。	2,3,4		*		*			◎	○	△	
42373	ドイツ文学講義E1	ドイツ語圏の言語と社会の諸問題を理解する。	2,3,4	*		*				◎	○	△	
42374	ドイツ文学講義E2	ドイツ語圏の言語と社会の諸問題を理解する。	2,3,4		*		*			◎	○	△	
42375	ドイツ文学演習A1	文学理論および研究方法論の観点から、ドイツ文学研究の諸問題に主体的に取り組む。	2,3,4	*		*					△	○	◎
42376	ドイツ文学演習A2	文学理論および研究方法論の観点から、ドイツ文学研究の諸問題に主体的に取り組む。	2,3,4		*		*				△	○	◎
42377	ドイツ文学演習B1	ドイツ近現代文学の諸問題に主体的に取り組む。	2,3,4	*		*					△	○	◎
42378	ドイツ文学演習B2	ドイツ近現代文学の諸問題に主体的に取り組む。	2,3,4		*		*				△	○	◎
42379	ドイツ文学演習C1	ドイツ語圏の言語と文化の諸問題に主体的に取り組む。	2,3,4	*		*					△	○	◎
42380	ドイツ文学演習C2	ドイツ語圏の言語と文化の諸問題に主体的に取り組む。	2,3,4		*		*				△	○	◎
42381	ドイツ文学演習D1	ドイツ語圏の文化と社会の諸問題に主体的に取り組む。	2,3,4	*		*					△	○	◎
42382	ドイツ文学演習D2	ドイツ語圏の文化と社会の諸問題に主体的に取り組む。	2,3,4		*		*				△	○	◎
42383	ドイツ文学演習E1	ドイツ語圏の言語と社会の諸問題に主体的に取り組む。	2,3,4	*		*					△	○	◎
42384	ドイツ文学演習E2	ドイツ語圏の言語と社会の諸問題に主体的に取り組む。	2,3,4		*		*				△	○	◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (ドイツ語学ドイツ文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
---	---

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4								
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*	*							○	◎	○	◎
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4			*	*					○	◎	○	◎
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4			*	*					○	◎	○	◎
11057	人文学序説A	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・ラボラトリ(実験)、サーベイ(調査と分析)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*		(*)									◎
11058	人文学序説B	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・フィールドワーク(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1			*	(*)								◎
11059	人文学序説C	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・哲学・歴史学分野における具体的な研究実践やテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1		(*)	*							○		
11060	人文学序説D	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・言語や文学に関するテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1			(*)	*						○		
11061	学類共通英語A	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*									◎		○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (ドイツ語学ドイツ文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>					
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)					
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学・漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p>	<p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p>	<p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p>	<p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p>	<p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p>	<p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
主履修分野のカリキュラム							
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
11062	学類共通英語B	<p>・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。</p> <p>・「学類共通英語A」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。</p>	3		*		

※ (\*)は年度によって開講時期が異なることを示します。